
おでん缶との再会

高橋さくら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おでん缶との再会

【コード】

N8807E

【作者名】

高橋さくら

【あらすじ】

10年ぶりにおでん缶と再会をはたしたいきさつ(?)を綴ったエッセイです。

今から10年くらい前、私はその当時勤めていた会社の近くにある自販機に「おでん」と書かれた缶が混じっているのを発見した。

普通の缶ジュースの中に唐突にある「おでん」という缶。

当時はあまりにびっくりして自販機の前でしばらくたたずんでしまった。

おでんの汁のみが入っている缶ジュースなのだろうか？いろいろな考察を巡らし、購入してみようかとも思ったが結局やめた。

それ程、自販機に売られているおでん缶は異様だった。

まさか具がちゃんと入っているなんて夢にも思わなかった。

その後、アキバが大ブレイクをはたし、おでん缶の存在が世の中に一気に広まったのは言うまでもない。

そういえば当時の会社はお茶の水で秋葉原に近かったなあ…

おでん缶は今やすっかりメジャーになり、先日近所のスーパーでお目にかかった。

久々に目の当たりにしたおでん缶。10年ぶりの再会。

ストリートミュージシャンだったヤツに会ったのは10年前…

あの頃のヤツはさっぱり売れておらず、たまたま通りがかった私に切ない目で買ってくれと訴えかけていたっけ。

あれから時は流れヤツはすっかりメジャーにのし上がった。

渋谷のH M Vのインスタイベントでのヤツは自信に満ち、天狗に
さえなっていた。

「こんどお、俺の妹分がデビューするんで、よろしく」
そう、言い放った。鼻持ちならない態度で。

ヤツは変わってしまったのだ…

……………そんな感じがしたので一度は手に取ったものの反対向きに
おでん缶を戻し、私はスーパ―を後にしたのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8807e/>

おでん缶との再会

2010年10月9日22時57分発行